

畑を起こす Raise the field

伊達市農業の課題を起こし種を蒔く「新規就農」

1 農業の現状

未来への不安

全国1位の夏秋きゅうり
全国でも有数の生産量を誇る桃
誇れる農業を守るために
新しい力が必要

農業の大きな課題

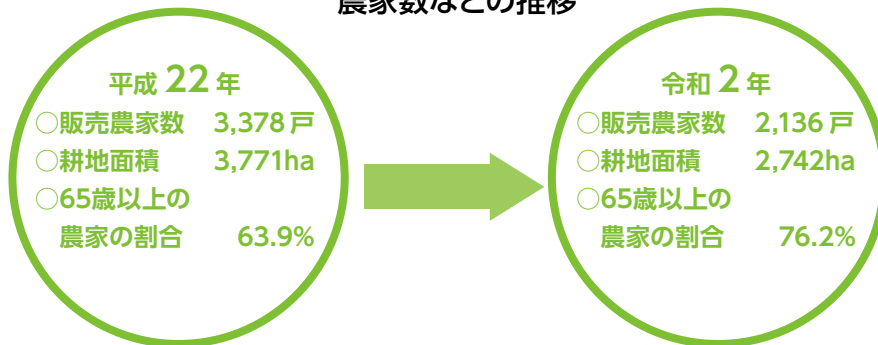
全国的に農業の大きな課題として、「高齢化・担い手不足」「耕作放棄地の増加」などを抱えています。これは伊達市でも例外ではありません。桃やきゅうり、あんぽ柿、いちごなど全国に誇る農産物の産地ですが、未来への不安を抱え、解決に向けた取り組みが求められています。

伊達市では、これらの課題解決策の一つとして、令和元年から新規就農者支援制度をより充実させ、これまで以上に移住者向けや新規就農者向けの支援を設置しています。

これらの課題に向けた取り組みが少しずつ実を結び、新たな農家が生まれています。新規就農の状況をみていきましょう。

出典：農業センサス

農家数などの推移



伊達市の平成 22 年と令和 2 年を比較すると、販売農家数は 37%、耕地面積は 28% 減少しています。農家高齢化率は 12.3% 上昇し、65 歳以上が 76.2% となっています。主な農産物の販売数量は、その年の天候、自然災害などにもよりますが、減少傾向になっています。

主な農産物の販売数量 (単位 kg)



出典：JA ふくしま未来品目別販売実績

※出荷量の順位は令和 2 年となります。

産地を守る

新規就農者を増やす取り組み

新規就農者支援、少子高齢化など による後継者・担い手不足の対応 農業の未来を作るために



まつもと まりな
松本 麻莉菜
産業部
農政課 主事

今年度から、県、市町村と連携して就農相談を受ける「地区本部新規就農支援チーム」を立ち上げました。これまでは、新規就農の相談があったら、県や市町村の担当窓口を紹介し、それぞれが相談を受けていました。それが一度に相談できるように変更し、就農相談がしやすい環境を整えました。

新規就農には資金や技術など多くの課題があります。そこで JA ふくしま未来の独自支援策として、担い手育成給付事業やふくしま未来農業振興支援事業を展開し、技術研修にかかる資金や農業機械、資材などへの助成を行っています。また、技術の継承として、のれんわけ方式事業を展開し、技術研修などを通して、先輩農家さんと相対して相談し、学ぶことができます。

伊達地区の中で、きゅうり、桃、あんぼ柿は三大品目として重要な農産物です。その産地を守るためにも、志を持った新規就農者の参入は大きな力となります。先輩農家の技術や想いを引き継いで、次の世代へつなぐことを期待しています。

社会全体の問題でもある少子高齢化、それによる後継者や担い手不足は深刻で、特に農業では大きな課題となっています。そんな中でも伊達市の農業は全国でも有数の産地を維持しています。この産地を守るため、新規就農者を呼び込むための取り組みや大切なことを語ってもらいました。

市では、新規就農者の支援や後継者不足への対応など、農業の担い手を育成するため、令和元年度から農政課の中に「農業担い手係」を新設しました。これにより、県やJAとの連携が強化され、迅速な対応へとつながっています。また、令和2年度より伊達市農林業振興公社内に、新規就農の相談窓口を設け、相談しやすい環境を提供しています。

新規就農には3つの壁があるといわれています。それは、「土地」「技術」「営農や暮らし」です。これらの支援として農地を借りた場合の賃借料の補助や技術研修先の紹介、研修期間中の経済的支援、暮らしを支える家賃補助など、国制度に該当するまでの隙間を市独自で支援しています。また、きゅうりや柿、いちごなどの研修を受け入れてくれる農家を昨年度から新たに6軒を確保し、受け入れの強化を図っています。

第一次産業である農業が盛んになることで、まちが元気になる地域が生まれます。就農者を増やすことで、全国に誇れる「伊達市の農業」の未来を作っていきたいです。

独自の支援策などにより 新規就農者をサポート 先輩農家の想いを次の世代へ

わたなべ ひろかつ
渡邊 弘克さん
ふくしま未来
農業協同組合
伊達地区
営農経済担当部長



産地を守るために 就農者を支援

就農しやすい環境を整備

伊達市は周囲を山に囲まれた盆地であり、夏は暑く冬は氷点下になるほど寒く、この寒暖差のある気候がおいしい農産物を作り出す。

関心はあっても新たに農業を始めるには、農地や農業機械、技術など農業に関するもののほか、住宅や生活環境など、乗り越えなければならぬ課題があります。その解決策として、行政とJA、農家が連携して相談や農業研修、農地のマッチングなど、就農しやすい環境の整備を進めています。また、就農を目指している人に、伊達市を知ってもらえるように就農相談会などを行っています。

就農者支援のポイント

- ポイント1 気軽に相談できる環境

福島県、伊達市、JAがチームとなって、就農相談を受け付け、トータルでサポートできる体制を今年から構築し、ワンストップで相談できます。
- ポイント2 栽培技術や経営を学ぶ

先進農家や公的研修機関での体験により、就農を希望する作物の特徴や栽培技術、農業経営など、就農に必要なノウハウを学ぶことができます。
- ポイント3 さまざまなケースに対応

就農までに千差万別の課題があります。農地や住環境のマッチング、生活や農業機械、資材への支援など、さまざまなケースに対応しています。

就農のモデルケース

- 1 情報収集

市や県・JAの相談窓口、先輩農家、Webなどから情報を収集する。
- 2 体験・短期研修

先進農家や公的研修機関での体験に参加。農業を行う適性チェックや、理想と現実の違いなどを学ぶ。
- 3 長期研修

農業法人や公的研修機関で雇用就農・長期研修を行い、知識・技術を習得する。
- 4 就農計画作成

規模・生産方式の目標や、収支に関する計画を作成する。
- 5 生産基盤の確保

農地、機械、営農資金、住宅などを確保する。
- 6 独立就農

プロフィール
 うちぼり ゆうだい
内堀 雄大さん (伊達地域)
 みきこ
美喜子さん
 出身: 雄大さん 北海道名寄市
 美喜子さん 伊達市
 家族: 5人
 就農年月: 令和2年6月
 栽培作物:
 桃 150a
 農業に興味を持ち、農業なら果樹、福島なら桃と決めて伊達市に就農。



福島なら桃
 桃なら伊達で作りたい

プロフィール
 なつさか しょうた
夏坂 翔太さん (伊達地域)
 出身: 青森県南部町
 家族: 独身
 就農年月: 令和3年3月
 栽培作物:
 ハウスきゅうり 12a
 露地きゅうり 10a
 昔から農業に興味を持ち、いつかやってみたいと思っていた夢を伊達市で実現。



日本一の伊達で
 きゅうりを作る

内堀君は何事にも一生懸命に取り組んでいて、地域の人とつながり、交流ができています。何よりやる気を持っています。それが成功につながっていると思います。収穫するまで、何が起こるか分からないので、緊張感を持ってやるよう伝えていきます。将来は、リーダーになってほしいです。

内堀さんって
 こんな人!

自 分の手で、生産から販売まで全て一貫してやってみたくて、思ったことが、農業を始めるきっかけでした。福島なら桃、桃なら伊達と思い、伊達市に就農しました。そして妻が応援してくれたことも力となりました。農業の魅力は、仕事であっても自然と一緒に生きていること。子どもたちにとって畑は遊び場。家族しかいないので、マスクなしで走り回って楽しんでいきます。また、桃は毎年、生育状況が違うので、どうしてあげたらいいのか考えるのが楽しいです。就農するため、佐々木さん

内堀さんに桃栽培の
 極意を伝授した
 先輩農家 佐々木 春男さん

のところで、1年間指導を受けました。いただいた言葉すべてが心に残り、経験が糧になっています。今朝も少し話を聞きに行ってきました（取材日）。隣の圃場の方々も、見に来て、いろいろと教えてくれるので感謝しています。今後はもう少し面積を増やし、作っている品種のほとんどがあかつきなので、樹齢と品種の分散を進め、作業効率を高めて、バランスの良い農業経営を目指していきたいです。



相談しながら摘果作業を進める内堀さん夫妻

夏坂君はとても真面目で勉強をしています。うちに来たときも最初から教えてほしいと話し、苗の消毒や定植から経験し、実践してもらいました。毎月行われる指導会に欠かさず参加してとても熱心です。将来は、指導する立場となって、伊達のきゅうりを継承して行ってほしいです。

夏坂さんって
 こんな人!

伊 達市で新規就農した知り合いから「就農したいなら教えるよ」と声をかけてもらったのがきっかけで、就農しました。きゅうりと決まっていたわけではありませんが、伊達市が名産地と聞いて、きゅうりに決めました。農業の魅力は、自分のペースで仕事ができること。そして、夏秋きゅうり日本一の伊達市できゅうりを作っていることを誇りに思いますし、私とその最前線に立っていることにやりがいを感じています。

新規就農するにあたり、農業普及所、農政課、JA、先

夏坂さんにきゅうり栽培の
 極意を伝授した
 先輩農家 佐藤 清和さん

輩農家の方々の多くのお世話になりました。出身の青森も同じ東北人で人の良さを感じますが、伊達市はともアットホームな雰囲気です。新規就農者が早く受け入れてくれる環境があります。きゅうりは成長が早いので、管理がとても大変です。管理が追いつかないと曲がってしまいうので、しっかりと管理をして商品価値の高いきゅうりを作り、規模を拡大させていきたいです。



佐藤さんの話に耳を傾ける夏坂さん

3 新規就農者インタビュー

Interview

農業を始める想い

お気軽にご相談ください
新規就農に関するお問い合わせ

伊達市で農業を始めたい、伊達市の移住環境を知りたいなど、新規就農に関するお問い合わせは、農政課農業担い手係または、JA ふくしま未来伊達地区農業振興課、伊達市農林業振興公社にお問い合わせください。

▶問い合わせ先
 農政課農業担い手係
 ☎ 024-573-5635
 JA ふくしま未来
 伊達地区農業振興課
 ☎ 024-575-0114
 伊達市農林業振興公社
 ☎ 024-573-2150



市公式
 ホームページ



JA ふくしま未来
 ホームページ

新規就農した夏坂さんと内堀さん 農業への想い、就農地としての伊達市を伺った

スペシャル対談
伊達市長と認定新規就農者との座談会

令和4年5月24日に伊達市長と認定新規就農者の夏坂さん、内堀さん夫妻の座談会が市役所で行われました。就農先の選定、就農地としての魅力などを語り合っています。伊達市公式YouTubeチャンネルからご覧ください。



市公式
 Youtube
 チャンネル



伊達市長と認定新規就農者の座談会